

令和3年度

木頭小学校  
「学力向上実行プラン」

学校の教育目標を踏まえた学力向上の重点目標

- 個に応じた指導を行い、基礎的・基本的な知識・技能を身に付けさせ、主体的に学習する力を伸ばすための指導の実践。
- 話し合い活動を充実させ、自分の考えについて、根拠を明らかにしながら表現できる児童の育成。

学力向上検討委員会構成

- 学力向上推進員 佐藤 仁昭
- 委員  
校長 谷 浩行 教頭 田村 卓也  
6年担任 水口 裕一 4年担任 松尾 達也 2年担任 明崎 龍之介  
特別支援2年担任 兼任 ひかる 1年担任 久保 佳加  
養護教諭 宮本 果菜

校長

谷 浩行

○次の(1)～(3)をバランスよく取り組み、学力の向上を推進

【各校の取組状況の把握について】

管理職による授業参観や教員からの報告等、様々な機会を捉え、取組状況の把握を行う。

(1)知識・技能の習得

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○漢字や計算の学習に意欲的に取り組んでいる児童が多い。 ●語彙力の定着の二極化が見られ、文章を書いたり説明を表現したりすることに課題がある児童がいる。	・学習習慣や学習態度が定着し、基礎的・基本的な知識・技能を確実に身に付けることができる。 ・課題について適切な言葉を使って説明したり文章を書いたりできる。	・個に応じた指導の工夫や課題を個別に与え、児童の学力の定着を図る。 ・自分の考えを文章でまとめる活動を積極的に取り入れる。		・小テストなどの反復学習により基礎的・基本的な知識・技能は身に付けることができたが、日記や作文での既習漢字の活用に課題が見られた。 ・文章を書く機会を多く設定したことで、考えを書き表すことができるようになってきたが、個人によって習熟度の差が大きく、表現の工夫や簡潔にまとめることに課題が見られた。	・日記やノート指導の際でも漢字の活用ができるように継続的に指導を行う。 ・学習アプリを有効活用し、一人一人に応じた課題に取り組む機会を設ける。 ・書いた文章を読み直したり、児童同士で読み合ったりして、よりよい表現法について話し合う。

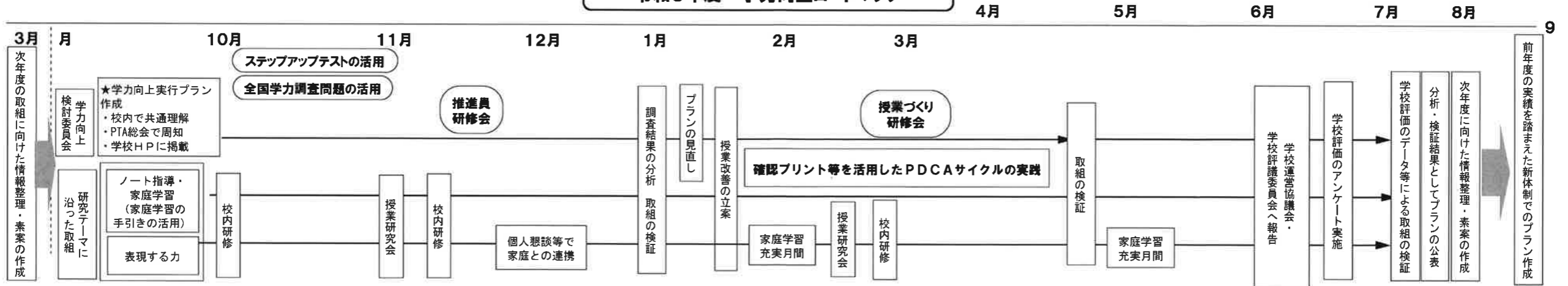
(2)思考力・判断力・表現力等の育成

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○他者の意見を聞き、受け入れることができる児童が多い。 ●はっきりとした意見や考えをもつことができず、理由や根拠を自分の言葉で伝えることが苦手な児童が多い。	・自分の考えとその理由を明確にし、理由や根拠を自分の言葉で伝えることができる。 ・相手や目的を意識して、自分の考えを積極的に話したり書いたりすることができる。	・意見を交流することができる場を多く設定する。 ・資料の提示や発問を工夫し思考を深める取り組みを行う。 ・少人数のよさを生かし、自力解決と練り上げの時間を確保する。		・意見交換の場を多く設定したり、資料の提示や発問を工夫したりしたことで、自分の考えを積極的に発表することができていた。 ・友達の意見に対する考えや理由・根拠を明確にして伝えることに関しては、まだ課題が見られる。	・発問やゆきぶりにより児童に思考させる時間や児童同士で意見交換する機会の設定を行う。 ・タブレットや付箋などを活用し、自分の考えを明確に伝えられるような工夫を行う。

(3)主体的に学習に取り組む態度の育成

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○与えられた課題や興味関心のある学習に対しては、意欲的に取り組むことができる。 ●自分で課題を見付け、課題解決に向けて取り組むことが苦手である。	・自分を高めようという意欲をもち、主体的に学習に取り組むことができる。 ・自分の課題を理解し、解決に向けて積極的に発表することができる。	・異学年交流を積極的に行い、手本にしたり、手本になつたりする機会を増やす。 ・学習の振り返りを共有する場面を設定し、次への課題意識をもたせるようにする。 ・デジタル教科書やタブレットなどを有効に活用し、学習に主体的に取り組める工夫をする。		・日常生活で考えられる事象から課題を設定したり、学習活動にタブレットを活用したりすることで、学習に意欲的に取り組むことができた。 ・ふるさと学習では、異学年交流で取り組んだことで、互いを高め合いながら、自分たちで課題を見付けるなど進んで取り組む姿が増えた。	・児童が、活動により積極的に取り組むために、タブレットを活用しつつ、児童の興味・関心のある教材や課題を取り上げていく。 ・ふるさと学習を軸に、自ら課題を見付け、追究する楽しさを知る機会を設ける。 ・近隣校との交流学習の場を設け、学習の活性化を図り、子どもの学習意欲の向上に努める。

令和3年度 学力向上ロードマップ



木頭中学校  
「学力向上実行プラン」

学校の教育目標を踏まえた学力向上の重点目標

- 少人数の強みを生かして、個に応じた指導を行い、基礎的・基本的な知識・技能を身に付けさせ、主体的に学習する力を伸ばすための指導の実践
- 話し合い活動を充実させ、根拠を明らかにして自分の考えを論理的に説明する能力を身に付けた生徒の育成

学力向上検討委員会構成

学力向上推進員 日下 靖之	委員 校長:谷 浩行 教頭:小泉 博嗣 教務主任:第二学年主任:研修主任:大岩 秀樹 人権主事:生徒指導主事:龍田 祐貴
------------------	---

校長

谷 浩行

◎次の(1)～(3)をバランスよく取り組み、学力の向上を推進

(1)知識・技能の習得

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○基礎的・基本的な知識・技能が身に付いており、授業中の課題に対して前向きに取り組める生徒が多い。 ●漢字や語彙力に乏しい生徒とそうでない生徒の二極化が見られる。	・基礎的・基本的な知識・技能を身に付けることができる。 ・習得した知識と既習の知識が関連付けられ、他の学習の場面でも教科横断的に知識を活用することができる。	・個に応じた指導の工夫や、課題を個別に与えるなど、少人数の特性を生かした授業を行う。 ・他教科、他校種の教員による相互の授業参観を通して、学習の系統性、教科横断的な内容を意識した授業を行う。		・少人数の特性を生かした授業展開や個別指導を行うことができた。 ・小テストや日々の課題、自主学習等を通して、多くの生徒の基礎的・基本的な知識・技能の定着が見られた。	継続して小テスト等を実施するとともに、ドリルアプリの積極的な利用を推進する。また、小中一貫校の強みを生かして、他教科・他校種の教員による授業参観の機会を増やす。

【各校の取組状況の把握について】

管理職による授業参観や教員からの報告等、様々な機会を捉え、取組状況の把握を行う。

(2)思考力・判断力・表現力等の育成

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○自分の感想・意見を自分の言葉で表現することができる。 ●資料から読み取った内容から自分の意見を書くなど「活用する力」が乏しい生徒が多い。	・教科横断的に知識を活用し、自分の考えを根拠や理由を明らかにしながら説明したり、書いたりして伝えることができる。	・GIGA スクールで導入されるソフトウェアを効果的に使い、自分の考えを整理したり、根拠や理由を明確にしたりして伝え合う活動を増やし、「活用する力」を付けるための学習指導を行う。		・総合的な学習の時間では、外部人材やソフトウェア等を有効に活用し、「活用する力」が向上した。 ・教科横断的な知識の活用をすることができた。	各教員の ICT 活用能力を高め、「活用する力」の向上を図るとともに、書く活動にも重点を置き、自分の考えを根拠とともに伝える力を育成する。

(3)主体的に学習に取り組む態度の育成

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○各授業へ意欲的に取り組み、積極的に発表することができる。 ●家庭学習習慣が身に付いておらず、自ら課題を見つけ、主体的、計画的に学習に取り組む姿勢が身に付いていない生徒が多い。	・主体的、計画的に家庭学習や課題に取り組むことができる。 ・将来に対する目的意識をもち、努力することができる。	・生活時間記録を活用した自己管理を通して、自分のペースに合った持続的な学習方法の定着を図る。 ・教科横断的にキャリア教育を行い、将来の夢や目標をもてるような授業を行う。		・家庭学習の取組に向上が見られ、計画的に学習ができた。 ・ふるさと学習などを通し、校外に出ることで地域や自身の将来について考えることができた。 ・校内で実施可能なキャリア教育が不足していた。	引き続き家庭学習習慣を身に付けることができるよう、生活時間記録等を活用し、計画的・主体的に学習に取り組ませる。地域・校内で実施可能なキャリア教育を充実させ、生徒一人一人が将来の夢や目標をもてるようにする。

令和3年度 学力向上ロードマップ

